

苦しんでいる人を救いたい。それはすべての人に共通する思いです

平成 29 年度



バングラデシュ © Lynette Nyman/IFRC

第 35 回 「NHK 海外たすけあい」事業報告

要約版

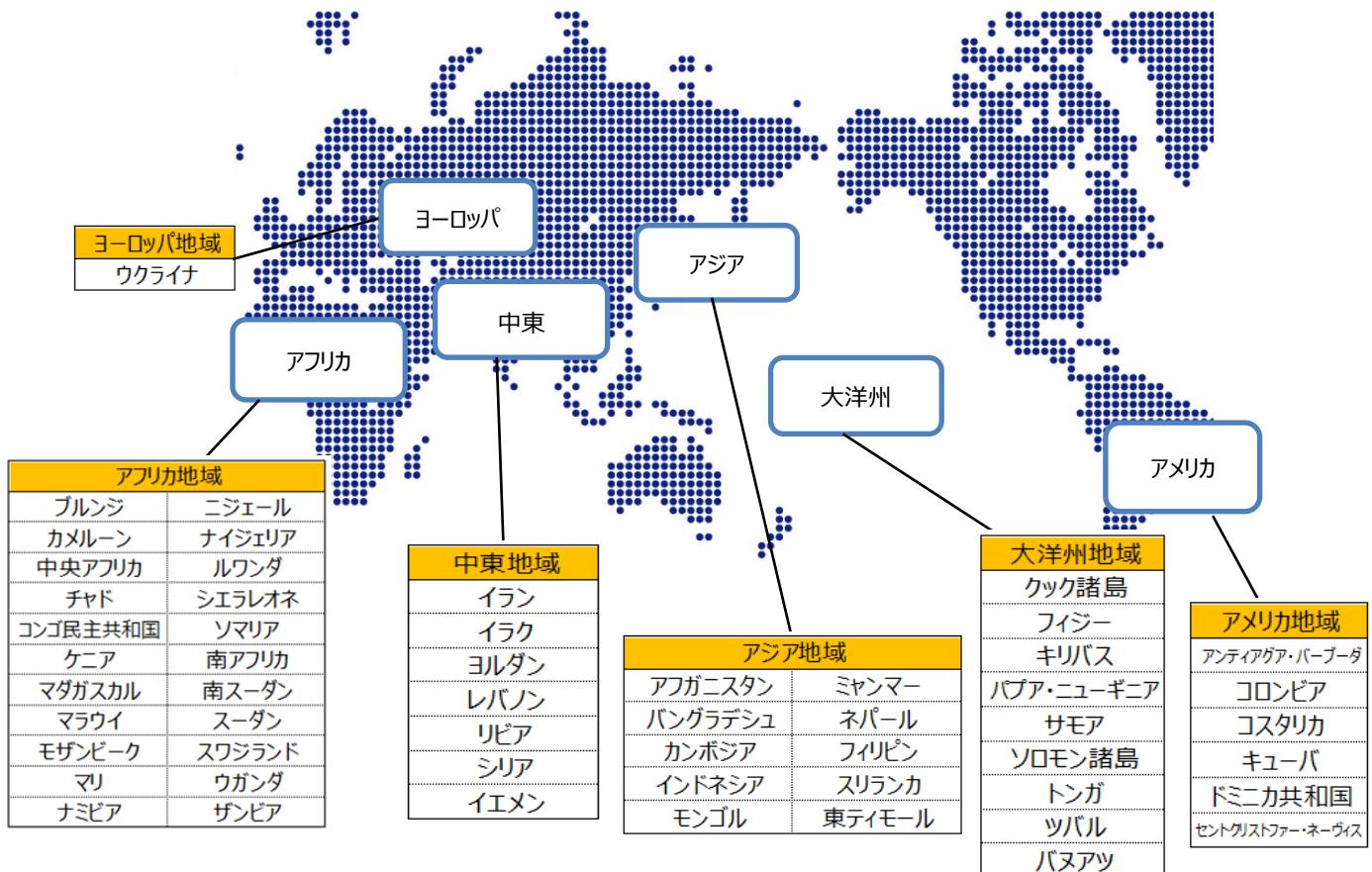
平成 29 年度の募集実績

- 寄付件数 **81,331 件** ※個人・法人を含む
- 実績額 **7 億 447 万 6,254 円**

皆様からの心温まるご支援は、

紛争で苦しむ人
災害で苦しむ人
病気で苦しむ人のために

世界 55 力国・地域の支援活動に使われました。



1983 年にはじまった「NHK 海外たすけあい」募金キャンペーンは、今日までに、累計 251 億円、支援した国、地域は 155 力国に上っています。

紛争で苦しむ人への支援



シリアでは、2011年以来紛争が続いており、国内、国外に避難した人は1000万人以上、70人以上のシリア赤新月社のボランティアが活動中に命を落としています。イラクでも武力紛争が終結しておらず、イエメンでは人口の約7割の人が支援を必要としています。日本赤十字社は紛争地25か国以上へ医療班派遣や資金提供を行いました。また、バングラデシュ南部に流入した避難民支援では、赤十字は避難先のバングラデシュだけでなく、ミャンマーでも活動しており、支援団体の中心的存在となっています。



ウクライナ © A. Wlasova/ICRC



© シリア赤新月社



赤十字とは

赤十字の発祥地はスイス、1864年のことでした。現在、各国・地域の赤十字・赤新月社の数は191に上ります。世界中どこで災害が起ころうと、そこにはいつも赤十字・赤新月社がいます。日本赤十字社は、この世界的なネットワークの強みを活用しているのです。

(注 『赤新月社』の呼称は、イスラム教の一部が採用しており、三日月マークを使用)



© N. Dunlop/ICRC

災害で苦しむ人への支援



災害の発生をなくすことはできませんが、被害を減少させることはできます。日本赤十字社は、発災直後の緊急支援、その後の復興支援、そして災害に見舞われた地域の住民が自分たちの力で立ち直り、次の災害に備えることができるよう、様々な形で支援を行っています。

ボランティアの活躍

赤十字・赤新月社の資産は世界中に 1200 万人いるボランティア。緊急救援だけでなく、平時には住民と連携し次の災害に備え、すべての活動の中心です。日本赤十字社は各国のボランティア育成に協力しています。



災害救援緊急資金

発災後すぐに被災国へ提供できる国際赤十字の基金です。2017 年には 75 か国、111 の災害に約 26 億円が提供されました。



病気で苦しむ人への支援



日本赤十字社は、国内に 92 の病院を持つ医療の専門家集団！
世界の赤十字の医療・保健事業に大きく貢献しています。

高度な医療を持ち込むのではなく、被災地のニーズに応じて巡回診療にも力を入れています。東アフリカでは、人々が楽しみながら保健の知識を身につけられるよう、村で映画の巡回上映会を行っています。



トイレの後に手を洗わなければいけないことを知りませんでした



ソランゲさん（ルワンダ）

世界では、毎年

- ・1400 万人以上の人人が感染症で死亡。
- ・10 億人以上の人人が清潔な水を使えない。
- ・26 億人以上の人人が最低限以下の衛生環境下。
- ・50 万人以上の妊婦が妊娠中や出産時に死亡。
(<https://media.ifrc.org/ifrc/what-we-do/health/>)

普段からの備え～赤十字活動



◆すべて持参～緊急対応ユニット(ERU)

国際赤十字が世界に誇る ERU (Emergency Response Unit)。テント、発電機、トイレから食料品まで救助活動に必要な装備品を準備し、いつでも出動できる体制をとっています。医療の他にも、給水、ロジスティック、IT、400床の病院、住居基地のユニット等があり、赤十字同士が互いに協力しながら活動しています。「現地に負担をかけない！」が赤十字の基本です。

◆世界をリードした昭憲皇太后基金

1912年（明治45年）、昭憲皇太后（明治天皇の皇后）により、平時の活動を奨励するため寄付された10万円（3億5千万円相当）を基に創設されました。多くの赤十字が戦時救護の対応に追われる中、平時の活動を支えるための基金は初めてでした。皇室を始め日本からの寄付金によって成り立ち、2017年までに163の国と地域に配分されています。

いつでも、どこへでも出動

- ・熊本とドバイの倉庫にERUの装備品を整備。
- ・クアラルンプールには救援物資（家族用テント、毛布、キッチンセット等）1万世帯分を備蓄。
- ・アジア・大洋州地域の10か国に給水・衛生キット。

支援金の使途詳細

(前年度繰越金)	100,086,956
平成 29 年度（第 35 回たすけあい募金額）※1	704,476,254
平成 29 年度収入合計	804,563,210
紛争で苦しむ人への支援	331,732,485
・バングラデシュ南部避難民への支援	80,371,927
・中東地域の紛争犠牲者への支援	138,139,220
・アフリカ地域の紛争犠牲者への支援	77,854,171
・アジア地域の紛争犠牲者への支援	11,000,000
・中米、東欧地域の紛争犠牲者の支援	24,367,167
災害で苦しむ人への支援	244,718,525
・地震や地滑りによる被災者の支援	20,000,000
・洪水やハリケーンによる被災者の支援	38,494,801
・アジア・大洋州における災害対策・防災事業	100,800,110
・緊急時に即時に対応するための救援物資備蓄整備等	85,423,614
病気で苦しむ人への支援	110,838,260
・感染症で苦しむ人の支援	17,367,620
・保健医療支援事業	61,961,872
・救急法普及支援事業	7,332,080
・支援主体となる地域・現地赤十字社の組織強化事業	24,176,688
NHK 海外たすけあい募集資料等作成費	42,268,575
平成 29 年度支出額合計	729,557,845
(翌年度繰越金) ※2	75,005,365

※1 第 35 回「NHK 海外たすけあい」募金キャンペーンは平成 29 年 12 月 1 日～25 日に実施。

※2 NHK 「海外たすけあい」の寄付金は、突発的な災害等のため年度を超えて活用させて頂きます

地域別内訳





ハイチ © IFRC

皆様の心温まるご支援に厚く御礼申し上げます

日本赤十字社

東京都港区芝大門 1-1-3 電話 03-3437-7087